



令和3年度
福島小学校だより

ふくしま

第4号 5月25日
八女市立福島小学校
校長 安達 浩文

マスクは適切 に着用を



八女市内の新型コロナウイルス感染者数は、3月16名、4月47名、5月91名(22日現在)となっており、感染力の強い変異株への置き換わりが進みつつある状況だそうです。屋外飲食のような3密ではない状況でもクラスターが発生している事案も確認されています。感染を防ぐには、やはりマスクの着用が有効だと保健所も指摘しています。正しい着用の仕方は『マスクを着けたまま、大きく口を開けて息を吸ったり吐いたりした時にマスクの真ん中の部分がひっこんだり、膨らんだりすること』だそうです。鼻の部分の密着が必要なようです。

「言葉に宿る心」



新年度になり2ヶ月が過ぎようとしています。授業中の子どもたちは、全体的に落ち着いて学習に取り組んでいます。しかし、梅雨入りした直後は、ろう下を走り回る児童が多数みられました。衝突すれば大怪我につながりかねないと



「ろう下は歩く」ことを全校で統一して指導しました。また、6年生は、1年生の手を引きながら、ろう下の歩き方を教えてくれました。(コロナ禍の中ではあまり良いことではないかもしれませんが)それらの結果、静かに歩行する姿がみられるようになってきています。しばらく雨は続きそうですが、このまま落ち着いた歩行をしてほしいと思っています。

さて、話は変わりますが、本校には「生徒指導推進委員会」という組織があり、「いじめ」やその他の生徒指導に関わる児童の様子について確認と対応策を講じます。その生徒指導推進委員会の中で子どもたちの言葉遣いが話題となりました。具体的には「死ね」「ウザい」「消えろ」等の相手を否定する言葉がよく使われており、その結果、人間関係がぎくしゃくしてしまっているのではないかと思います。テレビやオンラインゲーム、YouTube等で飛び交っている言葉を安易に使っているのかもしれませんが、浴びせられた側はいい気持ちはしません。

日本は古くから言葉をとても大切にしてきた国です。言葉には命があると信じられ、一度口から出た言葉は命を持ち、その言葉通りになっていくと思われていました。ですから言葉を大切にするとともに、自分の言った言葉には責任も感じていました。しかも、「言霊(ことだま)」とって言葉に対して“おそれ”さえも感じていたそうです。



相手を否定したり、攻撃したりする言葉を使っているときは、その人の表情も態度も「言葉に宿る心」そのもので険しくなっています。反対に、友達を思いやったり、親切に接したりしているときは、穏やかです。豊かな人間関係をはぐくむには、コミュニケーションの手段である言葉遣いは大切です。「言葉」そのものだけでなく、「言葉に宿る心」についても子どもたちに伝えていきたいと思ひます。まずは我々教職員が「言葉に宿る心」について考えたいと思ひます。ご家庭でもご協力をお願い致します。



5年生 集団宿泊訓練について



6月24日(木)・25日(金)には5年生の集団宿泊訓練を予定しています。福岡県が緊急事態宣言の指定地域となり、利用する海の中道青少年海の家は緊急事態宣言期間中は閉所となっています。よって緊急事態宣言が実施予定日まで延長されたり、市教委からの指示が出されたりした場合等は、変更せざるをえません。何とも悩ましく思いますが、実施するかどうかの判断は6月はじめになります。変更する場合、県内外のほとんどの施設が8月~10月の期間、予約で埋まっており、それ以降ということになってしまっています。なるべくなら延期してでも宿泊体験をさせたいと考えていますが、事情によっては日帰りになったり、中止したりする場合もあることをご了承下さい。予定通り6月に実施できることを祈るのみです。